



今回は、京都府内の幼稚園や保育園などに太陽光発電を設置する「きょうとグリーンファンド」とそのシステムを利用して太陽光発電を導入された美山町・田歌舎を訪問しました。

■「きょうとグリーンファンド」

子どもたちの未来に、もっと自然エネルギーを



京都府内の幼稚園や保育園などに太陽光発電を設置する「きょうとグリーンファンド」を紹介。結成当初から活動に参加している事務局長の大西啓子さんに非核の会事務局が取材し、取り組みや想いをお聞きしました。

きょうとグリーンファンドは2000年に歩みを始めました。現在、会員は約80名。1997年COP3が京都で開かれたこともあり、地球温暖化を何とかしたい、ひとつしかない地球で生きていくためには、地球を守る自然を守ることが大事だとの想いをもった人たちが集まりました。「エネルギーの使い放題は心せねば。原発はなくしたい。社会を変えるためには、まず節電の工夫など自分たちのライフスタイルを変えていくことが大事」と話す大西さん。福島原発事故前から自然エネルギーの普及に力を注いできたことを熱く語ります。生活を見直すことで節電は多少進んでも、興味関心だけでは社会は動かない。そこで結成されたのが「きょうとグリーンファンド」です。

市民共同の資金で「おひさま発電所」

「みんなでつくろう！おひさま発電所」と呼びかけ、保育園などの施設に太陽光発電設備を設置し、節電・省エネの息吹を吹き込んでいます。おひさま発電所のなごりはこうです。①市民や企業

が「おひさま基金」へ寄付。(会費も基金に入ります。)②「おひさま基金」は太陽光発電設備や、環境学習をすすめることに活用。(太陽光発電設備は、「おひさま基金」と設置施設の資金、市民からの寄付などを集め、設置します。)③おひさま発電所は発電分から一定額を「おひさま基金」に寄付してもらい、その一部を次の発電所設置や環境学習に充当。④きょうとグリーンファンドは、おひさま発電所が環境学習や情報発信の拠点になるようにサポート。

節電や環境学習も

おひさま発電所は現在17機。保育園や幼稚園の屋根などに太陽光パネルを設置して自然エネルギーを広めています。さらにゴミ・食べ物・肥料など様々なテーマで環境教室を開き、生活のあり方や環境の大切さを広げていくことにも繋がっています。「小さいころに節電などの習慣を身につけることが大事。子どもたちはすごい、家でも節電に気をつかうんです」と大西さん。こうして先生・子ども・保護者、そして地域にも生活の見直しや自然エネルギーの広がりが進んでいます。

きょうとグリーンファンド

正会員 1口10,000円/年
賛助会員 1口6,000円/年
法人・団体会員 1口10,000円/年

〒600-8191

京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL・FAX: 075-352-9150、E-mail info@kyoto-gf.org、URL
<http://www.kyoto-gf.org>

■「美山町・田歌舎」

「おひさま発電所」はここにもあった！自然のなかに生きる。脱原発の彼方に遠望する新しいライフスタイル

グリーンファンド・おひさま発電所は、美山町の「田歌舎」に波及しました。この代表の藤原善さんにお話をお聞きしました。



田歌舎は、由良川上流の美山川が流れる自然豊かな田歌にある自然学校です。宿泊してアウトドアツアーや自然体験に触れることができるうえ、自然の中で育まれた食材を使った料理が食べられるレストランもある。自然の中で生きることの楽しさや大切さを教えてくれる、自然的な暮らしが見える手作り満載のお店です。

この田歌舎に「おひさま発電所」が設置されています。藤原さんが太陽光発電を導入しようと考え始めたのは10年ほど前でしたが、資金の問題もあり、すぐには設置できませんでした。5年前には理事として関わるNPO法人芦生自然学校で小水力発電を導入しています。そうした中、東日本大震災が起こり、福島原発事故が発生しました。この惨状を見て、藤原さんは太陽光発電の導入に取り掛かりました。「原発の安全神話はやはり間違っていた。もうこの問題を後回しにするのはあかんやろ。何よりも太陽光発電の導入を」と藤原さんは当時の想いを語りました。



太陽光発電の導入は決定したが、資金の問題をどうしようかと思った時に、知り合いの大学の先生から「きょうとグリーンファンド」を紹介してもらいました。導入資金は借りるしかなかったが、利子を払うのであれば次の太陽光発電設置のために払った方がいい。何より田歌舎は自然や環境保全を発信する自然学校であり、それに相応しいのではないかと考え、きょうとグリーンファンドとともにおひさま発電所設置に取り組みました。そして、こんな呼びかけを発しました。

“東日本大震災、福島原発の事故は、私たちに今ま

での日本のあり方と、これからどのような社会をめざすのかを根底から問いかけるものとなりました。”
“未来の日本人にどのような社会と自然環境を残すことができるのか、私たちは覚悟を迫られているのです。”

“豊かな自然を誇る美山町は大飯原発30キロ圏内のまちでもあります。”

“原発のいらぬまちを、私たちでつくろう！”



こうして田歌舎への太陽光発電導入への設備協力金(一部寄付金)を募り、2012年10月に「おひさま発電所」が完成しました。いま発電された電力はすべて電力会社に売電していますが、将来的には蓄電器の導入も考え、小水力発電や風力発電にも挑戦したいとのこと。

藤原さんが美山町に来たのは大学を卒業して半年後のこと。大学2年の時、バブルが崩壊し、地球温暖化問題がクローズアップされました。そうした中、自分に何ができるだろうかと考え、都会の生活はおかしいと思い、自然のある田舎で生きることを選びました。最初はお金も家もありませんでしたが、地域の人たちの支えもあり、養鶏場で働きながら、大工の仕事をして、田んぼを借りて農業を教えられながら地域に根づき、2003年に「田歌舎」を始めました。

藤原さんは、「自然にあるものを大事にすること。自然の中で暮らし、豊かな自然によって育まれているお米や野菜、鹿やいのししや鳥を食べ。昔の日本の暮らしをもう一度見直すことが大事だ」と熱く語りました。こんな想いが、藤原さんを「田歌舎」へ、そして「おひさま発電所」という自然エネルギー運動へと導いているのでした。脱原発運動は、電力問題にとどまらず、まさにこれからの新しいライフスタイルの探求でもあるのです。

